広域通信制
NHK学園高等学校で学ぶ「書道Ⅰ」

NHK 学園高等学校 教諭　蒲池真純（かまち ますみ）

はじめに

本稿では学校名に「NHK」がつく NHK 学園高等学校について、また「通信制」ならではの学びについて紹介します。

NHK 学園高等学校について

NHK 学園高等学校（以下、N 学）は、NHK が 1962 年に設立した広域通信制の高等学校です。東京都国立市（くにたち し）にある東京本校と全国 30 か所以上の協力校で生徒が学んでいます。海外在住の生徒もいます。NHK 学園には、高等学校のほか、社会教育センター（生涯学習）、福祉教育センターがあり、通信を生かした教育を専門としています。

「通信制」高等学校の学びの仕組み

通信制の高等学校に勤務していると、よく「高校の卒業資格は取れますか？」と質問されます。多くのかたが思い浮かべる高校のイメージは「高等学校　普通科」のものだと思いますが、普通科と同様に 74 単位を修得することで卒業できます。単位制なので、他校で単位修得をしている転・編入生にも柔軟に対応できます。現在は高校生の 10 人に 1 人が通信制で学ぶ時代（参照：文部科学省 令和 7 年度学校基本調査）。通信制の需要は高まっています。

通信制では、「スクーリング」（学校での面接指導）・「レポート」（自宅での報告課題提出）・「試験」に取り組むことで、単位を修得します。スクーリングの必要時間数やレポート通数は文科省が示す規定により、教科ごとに定められており、「書道Ⅰ」（2 単位）は、スクーリング必要時間数 8 時間※、レポート 6 通が基本です。

※ ただし N 学では「NHK 高校講座」の計画的・継続的な視聴を義務づけており、スクーリング時間数は規定の 10 分の 6 減免が認められています。

通信制の生徒と東京書籍の教科書「書道Ⅰ」

N 学をはじめ、通信制の多くの生徒が東京書籍の教科書で「書道Ⅰ」を学習しています。全国高等学校通信制教育研究会（全通研）加盟校の「書道Ⅰ」採択教科書は、現在一律で東京書籍の「書道Ⅰ」です。また、通信制の生徒が多く視聴する番組「NHK 高校講座」は、東京書籍「書道Ⅰ」に準拠して制作されています。

この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

N 学の特色

NHK 教育テレビ「NHK 高校講座」との連携

NHK グループの学校法人である N 学は、NHK のテレビやラジオで放送されている「NHK 高校講座」を通じた学びを基本とし、教員が番組制作や高校講座 HP「理解度チェック」の作問などに携わっています。

NHK 高校講座
「書道Ⅰ」
https://edu.web.nhk/kokokoza/shodou/

私も高校講座「書道Ⅰ」制作において、生徒の声を届けながら放送講師を担当している一人です。

オンラインでレポート学習、手書きによる作品制作と添削指導

レポート学習は、学習用の Web システムで取り組みます。いつでも繰り返し視聴できる「NHK 高校講座」とレポート課題が連動した学習システムです。

「書道Ⅰ」のレポートは科目の特性を鑑み、「NHK 高校講座」の視聴に加え、Web 上の動画（以下、NOS 動画）をもとに実技作品制作に取り組み、郵送で提出します。

指導では、作品の実物を手に取って評価することを大切にしています。レポート内の楷書・行書による氏名手本、概評欄の文字は、生徒にとって「生きた手書きの文字」に触れる大切な機会と考えています。

学習用 Web システムのイメージ

レポート添削の様子
仮名「いろはうた」

レポート課題
隷書「曹全碑」の
生徒作品例

生涯学習講座との連携

N 学では、高校生だけでなく、幅広い年齢・地域のかたに生涯学習講座（オープンスクール・通信講座）を提供しています。その専門講師から学べるコース「登校プラス（本校）」「オンラインプラス（全国）」も魅力の一つです。

「書道Ⅰ」の学び

履修状況とスクーリング

N 学では、芸術科目（選択必修 2 単位）は「書道Ⅰ」「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」から選択できます。

全国の在籍生徒数約 3,000 名のうち、約 230 名が「書道Ⅰ」を履修しています。（令和 7 年度）

スクーリング指導は、東京本校・各協力校で書道の教員が実施します。理論の解説だけでなく、実技課題にしっかりと取り組める環境を整え指導を行っていることは、通信制の中でも特筆すべきことです。

ふだん、個々に自宅学習している通信制の生徒にとって、スクーリングの中で作品制作をしたり、先生の範書を間近で見たりすることは、学びの大きな原動力となっています。

この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

スクーリングのイメージ

スクーリングは、教室での対面指導となります。生徒は毎週教室で授業を受けるわけではありません。そのため、１回（２コマ）完結の内容で展開し、自宅学習につながる指導を行います。

● スクーリング時の学習例　（仮名の学習　仮名の基礎から「いろはうた」まで）

50分 × 2コマ

活動の流れ	学習内容	時間	生徒の活動	評価の観点
導入	・仮名の道具を知ろう	10分	・仮名用の小筆、仮名用半紙、固形墨、硯など、必要な道具を用意し、使い方を知る。	知識
展開１	・仮名の歴史・平仮名と変体仮名 ・小筆の使い方と基本線	20分 20分	・教科書を使用した解説で、仮名の歴史や古筆を知る。 ・磨墨の加減、小筆の捌き方・持ち方、基本線の表現を実践する。	知識・技能 表現
休憩				
展開２	・「いろはうた（前半い～う）」範書の見学 ・「いろはうた（前半い～う）」試筆、練習、通し書き	5分 40分	・範書から基本線の表現と字形、運筆のリズムを感じ取る。 ・各自、学習したことをもとに筆を使って実践してみる。	思考・判断 主体的に学習に取り組む態度
まとめ	・振り返りと道具の片付け	5分	・自宅学習のポイントを振り返る。小筆の穂先の処理を学ぶ。	主体的に学習に取り組む態度

「書道Ⅰ」レポート課題

①「書道Ⅰ」レポートの学習内容と放送視聴　（この学習内容は令和７年度の番組放送に沿ったものです。）

	タイトル・理論問題	実技課題	「NHK 高校講座」視聴内容
第1回	**漢字と仮名の調和**　文房四宝	硬筆による書写の振り返り	①書はアートだ！　～書写から書道へ～ ②線に無限の可能性　～筆と墨～
第2回	**漢字の書**　楷書「九成宮醴泉銘」	「清風」半紙２字臨書	③臨書に挑戦　～漢字の書体の変遷と楷書～ ④くらべて発見！書の個性　～書風の比較～ ⑤石に刻まれた書　～北魏の楷書～
第3回	**漢字の書**　行書「蘭亭序」	「永和」半紙２字臨書	⑥写経に挑戦　～小筆であじわう小楷の世界～ ⑦書聖・王羲之の世界　～行書のリズム～ ⑧空海と日本の書の広がり　～中国と日本の行書～
第4回	**漢字の書**　隷書「曹全碑」身の回りの隷書探し	「世紀」半紙２字臨書	⑨学んだ古典を使ってみたい！　～古典に基づく創作～ ⑩パスポートの不思議なあの字は？　～書体のルーツ 篆書～ ⑪波磔の美　～探してみよう 隷書～
第5回	**漢字の書**　草書「真草千字文」	「仁慈」半紙２字臨書	⑫躍動する筆　～草書～ ⑬書の美や風趣を味わおう　～漢字の書～
第6回	**仮名の書**　仮名の字源	いろはうた前半	⑭ひらがなの誕生　～筆使いといろは歌～ ⑮わかるとたのしい美の秘訣　～変体仮名、連綿～ ⑯線と空間のハーモニー　～平安の仮名～

この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

②「書道Ⅰ」レポートの構成と観点別評価　※評価は観点ごとに５段階（ＡＢＣＤＥ）、年間６通

課題	学習内容	観点別評価
理論問題	書道史・書道理論・文房四宝などの筆記課題	知識・技能
実技課題	硬筆（第１回）、毛筆（第２～６回）による実技作品	思考・判断・表現
「NHK 高校講座」視聴	視聴、感想の記述	主体的に学習に取り組む態度
「NOS 動画」	レポート学習の動画視聴	主体的に学習に取り組む態度
自己評価	レポートの振り返り	主体的に学習に取り組む態度

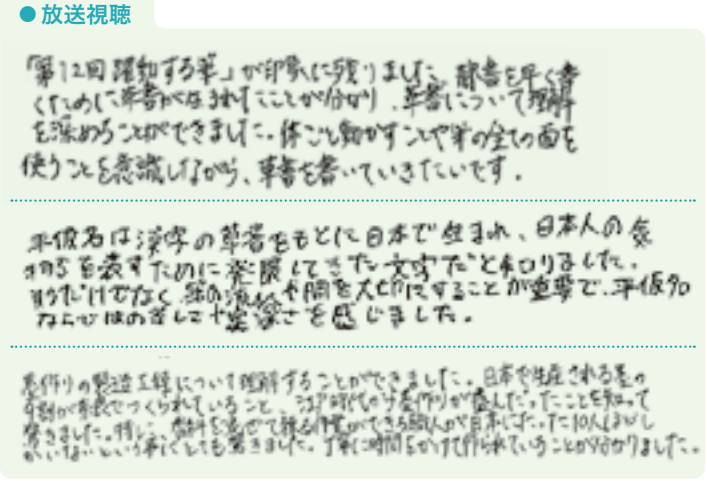
生徒による感想例

生徒たちは、放送視聴で学習したことを自分の言葉でしっかりとまとめています。教室で学べることのほか、道具が作られる工程のように「映像だからこそ深く学べること」も放送視聴の学習効果といえます。

１年間の学習の振り返りでは、生徒にさまざまな気づきがあったことが分かります。

※ 中学校では国語科「書写」となりますが、生徒の声をそのまま掲載しています。

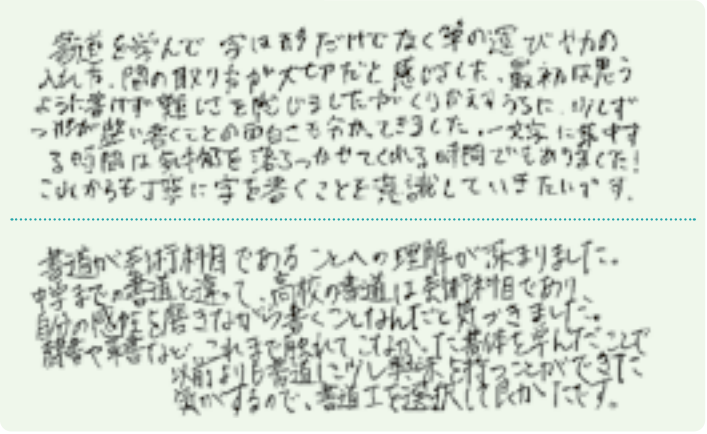
● 放送視聴


「第1回 躍動する筆」が印象に残りました。線書を早く書くために平書があるということが分かり、平書について理解を深めることができました。体に力がかかるや筆の全ての面を使うことを意識しながら、平書を書いていきたいです。

平仮名は漢字の草書をもとに日本で生まれ、日本人の気持ちを表すために発展してきた文字だと知りました。形だけでなく、線の流れや間を大切にすることが重要で、平仮名ならではの美しさや難しさを感じました。

筆作りの製造工程について理解することができました。日本で生産される筆の多くが熊野でつくられていること、江戸時代から筆作りが盛んだったことを知って驚きました。特に、動物を使って様々な筆ができる職人が日本にはたった10人ほどしかいないということにも驚きました。丁寧に時間をかけて作られていることが分かりました。

● １年間の学習の振り返り


篆書を学んで字は形だけでなく筆の運びや力の入れ方、間の取り方が大切だと感じました。最初は思うように書けず難しさを感じましたがくり返えすうちに少しずつ形が整い書くことの面白さも分かってきました。一文字に集中する時間は気持ちを落ち着かせてくれる時間でもありました！これからも丁寧に字を書くことを意識していきたいです。

書道が必修科目であることへの理解が深まりました。中学までの書道と違って、高校の書道は必修科目であり、自分の感性を磨きながら書くことなんだと気づきました。調色や平書など、これまで触れてこなかった書体を学んだことで以前よりも書道にワクワクすることができました。楽しかったので、書道Ⅱを選択したいです。

おわりに

あるＮ学生が、年度当初に「学習に必要だから」と、「NHK 高校講座」で見た書道具店に行き、「硯」を購入しました。実物の硯の美しさに触れ、これがきっかけで硯の世界に魅了されたようです。端渓（たんけい）硯・歙州（きゅうじゅう）硯（けん）…とみるみる硯に詳しくなり、年度の途中にはこちらが舌を巻くほどの知識を身につけていました。好きな学びをとことん追究できるのも自宅学習の時間の使い方のおもしろさ、通信制ならではの学びのよさかもしれません。

この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。